

◎ 展示会・イベント情報

1. 特別展「工場賛歌～成型編」開催

多治見市モザイクタイルミュージアムで特別展「工場賛歌～成型編」が、2019年5月25日(土)～9月1日(日)まで開催されています。

本展は、2016年に実施した特別展「工場賛歌～原料編」及び2017年に実施した「工場賛歌～釉薬編」を引き継ぎ、タイルの成型方法に注目する展覧会です。湿式、乾式など多様な製法、素材、タイルならではの特徴などを、実際の型に加えて、写真や模型、製品などを展示によって紹介しています。

また、会期中には、さまざまな成型方法について来場者の方々が関心をもてるよう、見学会やワークショップなどを開催します。これまで深く掘り下げられることがなかったタイル産業の重要な一面に、少しでも触れる機会となれば幸いです。

日時： 2019年5月25日(土)～9月1日(日)

会場： 多治見市モザイクタイルミュージアム 3F ギャラリー

休館日： 月曜日(休日の場合は翌平日)

開館時間： 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分)

観覧料： 一般300円、団体250円(常設展観覧料でご覧いただけます)

高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方及び付き添い1名様無料



タイルの形、型のカチ、千差万態

特別展

工場賛歌

成型編

◎ 美術館情報

【各施設では、下記の特別展・企画展等のほか、常設展を開催しております。】

1. 愛知県陶磁美術館【愛知・瀬戸市】(http://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/2019/t_indus/index.html)

6月29日(土)～8月18日(日)

企画展： インダス文明への道－栗田功コレクションを中心に－
インダス文明は、紀元前 2600 年頃から紀元前 1800 年頃にかけて現在のパキスタンを中心に発展した、世界四大文明の一つに数えられる世界屈指の古代都市文明です。当文明は、紀元前 7000 年から紀元前 6000 年頃に始まる当地域の農耕文化発展の結果として成立しました。最初期の農耕文化の中心となったバローチスターン地方では、インダス文明の信仰に連なる瘤牛(こぶうし)や菩提樹(ぼだいじゅ)をはじめ、様々な幾何学文様で飾られた彩文土器、豊穡を祈る女性土偶や、当時身近だった動物の土製品等が作られました。2015 年度に当館では、こうしたインダス文明に関わる国内最大規模のコレクションの寄贈を栗田功氏から受け、本展はその全貌を紹介する初めての大きな展覧会です。



2. 松濤美術館【東京・渋谷区】(<https://shoto-museum.jp/exhibitions/183ookura/>)

6月8日(土)～7月28日(日)

企画展： 華めく洋食器 大倉陶園 100 年歴史と文化
1919(大正 8)年に大倉孫兵衛、和親父子によって創設された大倉陶園は、日本を代表する洋食器メーカーとして、今日まで世界に誇る製品を生み出し続けてきました。本展は、同園の優れたデザインや品質を紹介するとともに、多くの財界人や老舗ホテル等のために製作された作品を展示し、日本の洋食器文化における大倉陶園の役割を探ります。また、最新の調査結果を反映し、これまで知られることのなかった創業当時の様子を伝える資料も併せてご覧いただけます。



3. パナソニック汐留美術館【東京・港区】(<https://panasonic.co.jp/ls/museum/exhibition/19/190706/index.html>)

7月6日(土)～9月23日(月・祝)

企画展： マイセン動物園展

ヨーロッパ初の磁器製造に成功したドイツの磁器製作所、マイセン。本展はマイセンの「動物」に着目します。18 世紀から動物彫刻を製作していたマイセンですが、とりわけアール・ヌーヴォー期には動物のやわらかさを表現することに成功しリアルさと愛らしさを見事に両立させました。本展ではそのような動物作品を中心に構成し新しいアプローチでマイセンの造形と装飾をたどります。

